

ひょうたん池

桜台小 学校だより
令和5年3月7日
第63号



「校長先生、チューリップの芽が大きくなってきたよ」と1年生の子が教えに来てくれました。この冬はたくさん雪が積もり、ひょうたん池に氷がはる日も何度もあって気温の低い日が多く、全体的に寒かったように感じます。チューリップの芽を見ると、確実にそこまで春が近づいてきていることを予感させてくれます。

6年生が学校に通う日も、今日を入れていよいよ10日となりました。これから卒業式の練習も少しずつ熱をおびてきます。6年生には、小学校生活最後の日々をかみしめながら、下級生たちに「なかま（相手）を大切に
する」という大切な精神をしっかりと受け継いでいってほしいと思います。

※学校ホームページ「桜台っ子ニュース」では、日々の学校の様子をカラーで紹介しています。



「昭和のくらし 昭和のおもちゃⅡ」の企画展を見ました。(3年生)

2月28日(火)、3年生は午前中そらんぼ四日市(四日市市立博物館)に出かけました。現在、私たちはスイッチひとつで何でもできる便利な時代に暮らしています。このようなくらしの出発点になったのは昭和30年代といわれています。日本が高度経済成長へと向かい、電化製品が少しずつ家庭に入ってきた頃です。昭和30年代初期には電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビが「三種の神器」と呼ばれて普及し始め、昭和30年代後半になるとカラーテレビ、クーラー、自家用車が普及していきました。子どもたちは「昭和のくらし 昭和のおもちゃⅡ」の企画展を見て、昭和の生活と現在の生活との違いを見つけていました。CDではなく、レコードやソノシートを使って音楽を聞いていたことや、冷蔵庫がどうやって使われていたのかも職員の方から詳しく教えていただきました。また、ダイヤル式の電話機やだがしや、当時の教室の様子に興味深く見ていました。昭和30年代の教室の展示には、当時の時間割が貼ってあり、土曜日に4限授業が入っていました。この頃の3年生は6限目に授業がなく、3日間が5限日課で、月曜日と水曜日の2日間は4限日課であったようです。私も昭和40年生まれですが、小学生だった頃を思い出し、そんな時代があったんだなぁと懐かしく思いました。



「桜台ありがとうの会」「6年生お祝い給食」がありました。

3月1日(水)には、6年生が教職員を招いて「桜台ありがとうの会」を催してくれました。体育館の準備をしてから6年生の子どもたちが職員室にいる教職員を迎えに来てくれ、クイズを出題してくれたり、漫才や手品を披露してくれたりしました。最後には「絆」という合唱曲を大きな声で披露してくれました。6年生から、感謝の言葉や教職員個々へのプレゼントの贈呈などもありました。子どもたちも教職員も笑顔があふれ、ひと時の充実した楽しい時間を過ごすことができました。丁寧に準備を進めてくれた6年生の皆さん、本当にありがとうございました。



3月6日(月)は、「6年生のお祝い給食」として、メニューは、カレーライス、牛乳、海藻サラダのほかに、豚カツまたはエビフライから1品、プリンまたはすだち&桃ゼリーから1品を選ぶというメニューでした。6年生の子どもたちはいつもと違った豪華なメニューに、表情をゆるませておいしそうに食べていました。給食調理員の皆さんには、6年生のために、いつもの給食のメニューに加えて、多くのメニューを調理していただきました。子どもたちみんなで感謝をしたいと思います。



(文責 北住 昌文)